

主役はキミたち学生だ！ ―学生志向のプロモーションビデオ制作―

筑波大学附属図書館 中山知士

e-mail : gon@tulips.tsukuba.ac.jp

1. 今までの利用案内(図書館紹介)ビデオとは

- 「大学図書館の位置づけをはじめにしっかり理解してもらうことが大切なことであり、これらを十分説明できる内容を構成することが重要である。」という考えのもとで…
- 約 20 分で図書館の概要・利用方法や分館の案内などを説明
- シナリオは図書館、制作(撮影・編集・音入れなど)は学内施設の教育機器センター(当時)が行った
- 最新版は H15 年版
 - ☐ 図書館「内」の話
 - ☐ 映像＋ナレーション
 - ☐ 「～があります。そこでは～」



<H15 年版ビデオのタイトル画面>

2. 新入生オリエンテーションでの上映

- 例年入学式直後に 1 日各種オリエンテーションが行われる。図書館にも 40 分が与えられる
- 担当者が各教室に出向いて、ビデオ上映＋利用案内を行う
- 1 つの学年全体に(半強制的に)図書館を PR できるほぼ唯一のチャンス！なのだが…
- もうすでに「図書館を利用しよう」と思っている学生には有効

3. 利用案内ビデオの実情と課題

- そもそも H15 年版は内容が古くなっていたので、改訂は必要となっていた
- 寝ている／飽きている → 内容覚えてない(というよりも覚えられない) → 図書館に行かない
- なぜ「寝ている／飽きている」状態になってしまうのか。たかだか20分のビデオなのに！
- 図書館側の真摯な制作意図 ⇔ 学生達の興味

4. 新プロモーションビデオ WG 立ち上げ

☆利用案内ビデオは、なぜ退屈なの？

☆どんなビデオを作ればいいの？？

⇒ ビデオの制作目的から見直しへ

☆学生を見る気にさせるにはどうすれば？？？

■プロモーションビデオ制作の基本コンセプト

1. 新しい視点からの利用法の提案
2. 学生に図書館への親近感をもってもらう ⇒
3. Web をプラットフォームとする
4. 図書館職員のスキルアップを図る

コンセプト全体のキャッチコピー

【週5図書館生活、どうですか？】

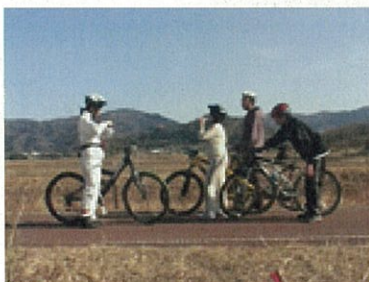
5. 制作

1. 新しい視点からの利用法の提案

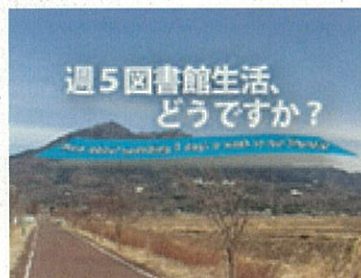
利用上の規則は最小限に。見て楽しい、行ってみたくなる映像で、「こんな風に図書館を使っては？」という提案を行う内容構成
→ 学習以外の場面での図書館活用を盛り込んでシナリオを作る

2. 学生に図書館への親近感をもってもらう

- シナリオの主役を学生にする → キャンパス生活での図書館利用をメインストーリーにする
- 学生と一緒に作る → 演劇サークル・放送系サークルなどとの共同作業
- 親近感を創出するシナリオの作成
→ 退屈な説明をしない／映像にスピード感を／メリハリのあるストーリー展開



<週5図書館生活、どうですか？冒頭シーン>



<同タイトル画面>

3. Web をプラットフォームとする

- 将来の改訂を容易にするために(最新情報を盛り込める)
- 映像とリンクさせた内容の利用案内ページを用意し、サイト全体でプロモーション効果を高める
- ビデオを含めた図書館プロモーションと、図書館と学生のコミュニケーションの場とするために(アンケートなどを容易に行え、それをサイトに反映できる。)

4. 図書館職員のスキルアップを図る

- 企画立案
- 映像のためのシナリオ／絵コンテ作り
- 撮影・編集時の監督
- 出演者・撮影者のスケジュール管理
- プロモーションサイトの構築(HTML／Flash のページ作成)
- 利用者アンケートの実施

6. 完成・公開

- MOVIE は、字幕なし／日本語字幕／英語字幕／韓国語字幕／中国語字幕の5種類(約 23 分)
- H20 年4月にプロモーションサイト公開
- 新入生オリエンテーションで上映
 - 上映中に笑い声があがったのは初めてのこと
 - 居眠り学生はほとんど見られなかった
 - 直後のレファレンスデスクで「何でも聞いていってというカウンターはここですか？」
- H20 年 6-9 月の約 4 ヶ月間に渡りアンケートを実施・集計結果公開



＜プロモーションサイトのトップページ＞



＜プロモーションサイトのアンケート結果公開ページ＞

7. 今後の課題

- プロモーションサイトは当初計画のすべてを実現できていない
 - ビデオと Web コンテンツ間のリンクの充実
 - 情報の充実
 - サイト自体の構成(ユーザビリティ)の見直し
- 上映時に与えた図書館への興味を持続させる努力・取り組みが必要
 - プロモーションのターゲットを学生全体に拡大
 - 何度も訪れたいと思うサイト作り
 - 学生からのフィードバックを可能とする仕組み作り
 - プロモーション活動自体に学生の参加を求めて

8. おまけ(「週5図書館生活、どうですか?」あらすじと人物など)

筑波大学に入学して2年。田中週七(しゅうな)は勉強に、サークルに、アルバイトに、と忙しくも楽しいキャンパスライフを送る女子学生です。ある日、自転車サークルの先輩から大会に向けた強化プログラムを考えるように指示された彼女。週七は大学図書館をうまく活用してプランを考えていきます。

月曜日はサークルの先輩と図書館で待ち合わせ。火曜日はレポート作成のために図書館で調べもの。水、木と図書館の資料やサービスを利用して強化プランを作っていきます。普段利用しない専門図書館にも入って、いろい

ろな本との出会いも楽しんでいるようです。金曜日は、書架で本の場所がわからず困っている留学生を助けます。土、日はサークルやアルバイトで過ごす彼女ですが、気がつかないうちに図書館のサービスを受けている様子。「結局毎日、図書館を使ってるなあ」と気がつく彼女なのでした。

【田中週七(たなか・しゅうな)】20歳 女

本編の主人公で、現在人間学群教育学類2年生。自転車サークルに所属。

性格は活発で親切。ひらめきも抜群。

【佐藤週五(さとう・しゅうご)】21歳 男

自転車サークルにおける田中週七の先輩で、現在芸術専門学群3年生。マイペースな性格。

3年生になり、サークルにもあまり顔を出せないでいる。

【サークル仲間A】 田中週七と同じ自転車サークルの仲間

【サークル仲間B】 同右

【サークル仲間C】 同右

【図書館員A】

中央図書館メインカウンター職員。親切でフレンドリーな言葉遣い。仕事に関しては動きがとても機敏

【図書館員B】

中央図書館レファレンスデスク職員。物知りではきはきとした受け答えをする。

【留学生】

日本語がほとんど話せない。図書館のことがよくわかっておらず、使い方を週七に尋ねる。

母国でソーリング経験あり。

【突っ込み隊】

図書館内における週七たちの行動にボードメッセージなどで突っ込みを入れる。週七にはその姿が見えない。

【がまの妖精】

附属図書館設立当初から住み着く。週七に目をつけ行動を見守っている。

時々天の声(＝ナレーション)を発する

本日はまことにかたじけのうござる。

「週5図書館生活、どうですか? THE MOVIE」や「アンケート結果」を含む、筑波大学附属図書館プロモーションサイトは

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/w5lib/5days.html>

にて展開中ござる。



<がまの妖精役の、がまじゃんぱー。衣装とセリフはビデオの金曜日バージョンです>